



大日本塗料株式会社


2016年3月期決算説明会

2016年5月30日

(証券コード 4611 東証第一部)

目次

I. 決算実績・業績予想	P. 2
II. 経営戦略	P. 17
Appendix. 会社概要及び事業内容	P. 29



I . 決算実績・業績予想

1. 経営成績の概況

①DNTグループの概況

- 国内塗料は重防食塗料(構造物塗料)を中心に、建材、金属焼付(カーテンウォール)に強み
- 海外塗料は海外事業拡大プロジェクトにより積極拡大
- 業務用照明機器、蛍光色材においては国内No.1

海外塗料

- 自動車・プラスチック塗料
- 金属焼付塗料
- 車輻及び産業機械塗料
- 構造物塗料
- 建築塗料
- 建材塗料



照明機器

- DNライティング(株)／ニッポ電工(株)
- 主に業務用照明機器

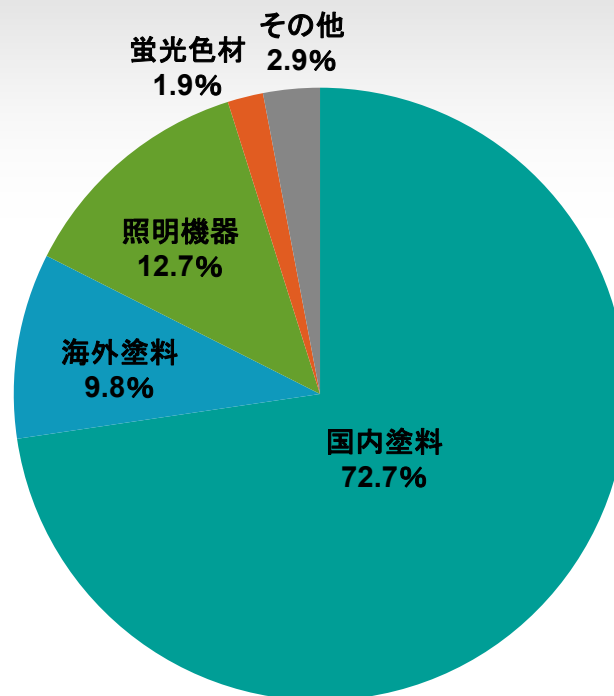


蛍光色材

- シンロイヒ(株)
- 蛍光塗料・反射塗料



セグメント売上高の概況 (連結:2016年3月期 763億円)



国内塗料

- 構造物塗料
- 建築塗料
- 建材塗料
- 金属焼付塗料
- 車輻及び産業機械塗料
- 自動車・プラスチック塗料
- 自動車補修塗料
- ジェットインク等



その他

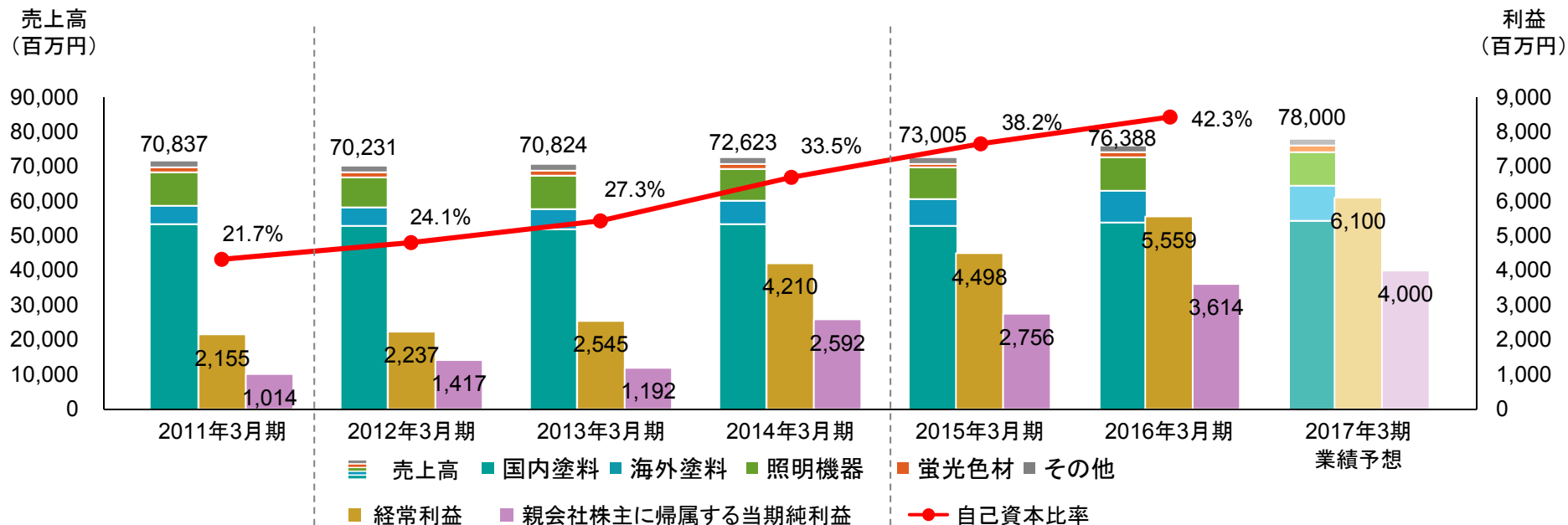
- 日塗エンジニアリング(株)
- エンジニアリング
- ニットサービス(株)
- 物流



1. 経営成績の概況

②売上高・利益推移

■ 構造改革を完了し、過去最高益を連続更新



3本柱

- 国内塗料事業の高付加価値化
- 海外塗料事業の積極拡大
- 新たな収益源事業の育成・強化

前中期経営計画期間(～2014年3月期)

- グループ構造改革・体質改善を積極的に伸展
- 海外塗料事業・ジェットインク事業の成長基盤を整備
- 成果
 - 業績目標を達成し、最高益を更新
(経常利益 : 目標36億円→実績42億円)
(経常利益率 : 目標5.0% → 実績5.8%)
 - 高収益体質に転換、財務内容は大幅好転
(借入金圧縮 208億円→153億円(△55億円))
(自己資本比率向上 21.7%→33.5%(+11.8ポイント))

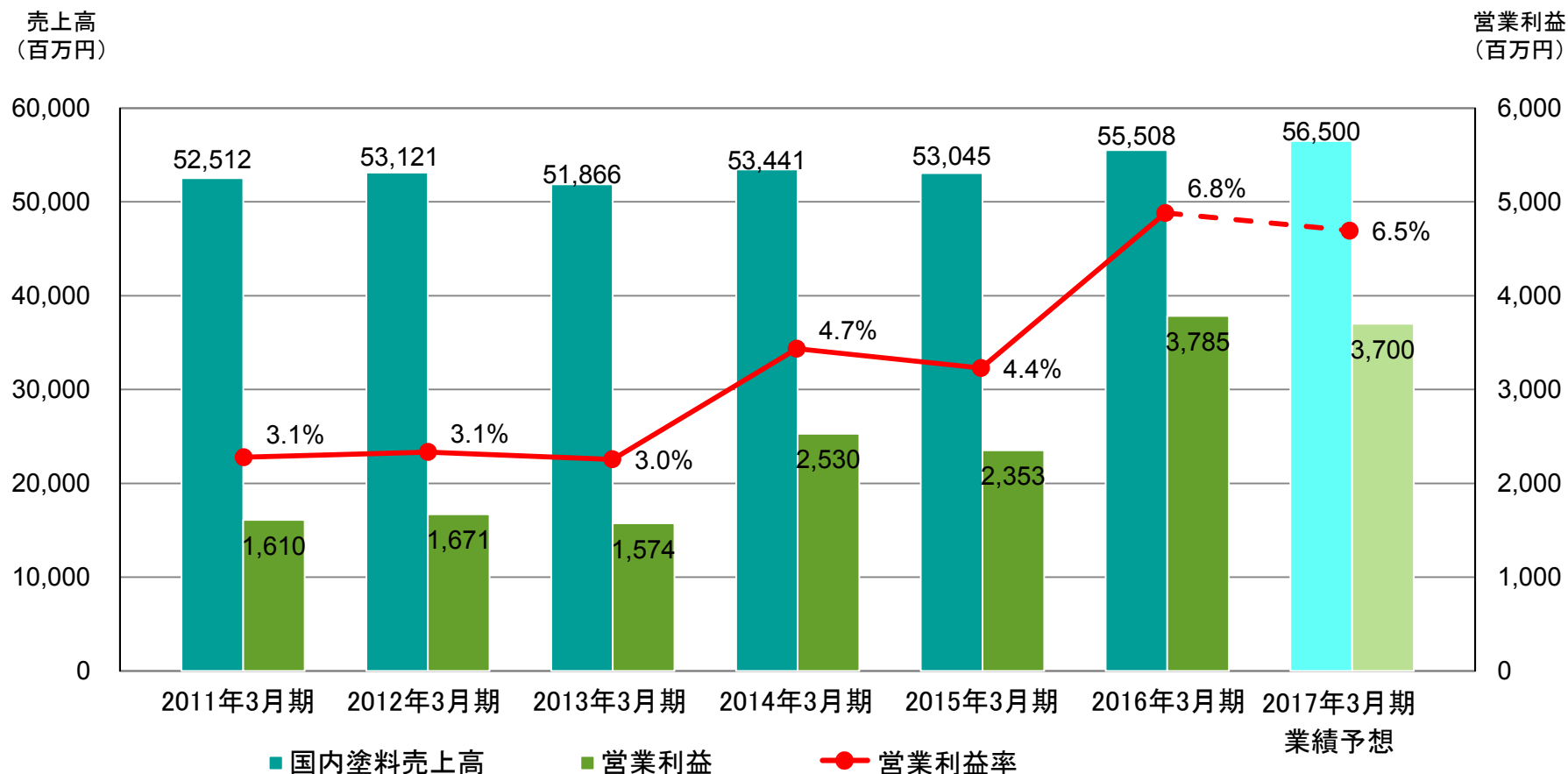
新中期経営計画期間(～2017年3月期)

- さらなる成長力とグローバル展開力を持つ企業へ
- 数値計画
 - 売上高 : 800億円
 - 営業利益 : 59億円
 - 経常利益 : 60億円
 - 経常利益率 : 7.5%

1. 経営成績の概況

③国内塗料事業 売上高・営業利益推移

- 市場縮小のなか、インフラ更新需要を着実に取り込み、グループ構造改革や体質改善を進め収益基盤を強化

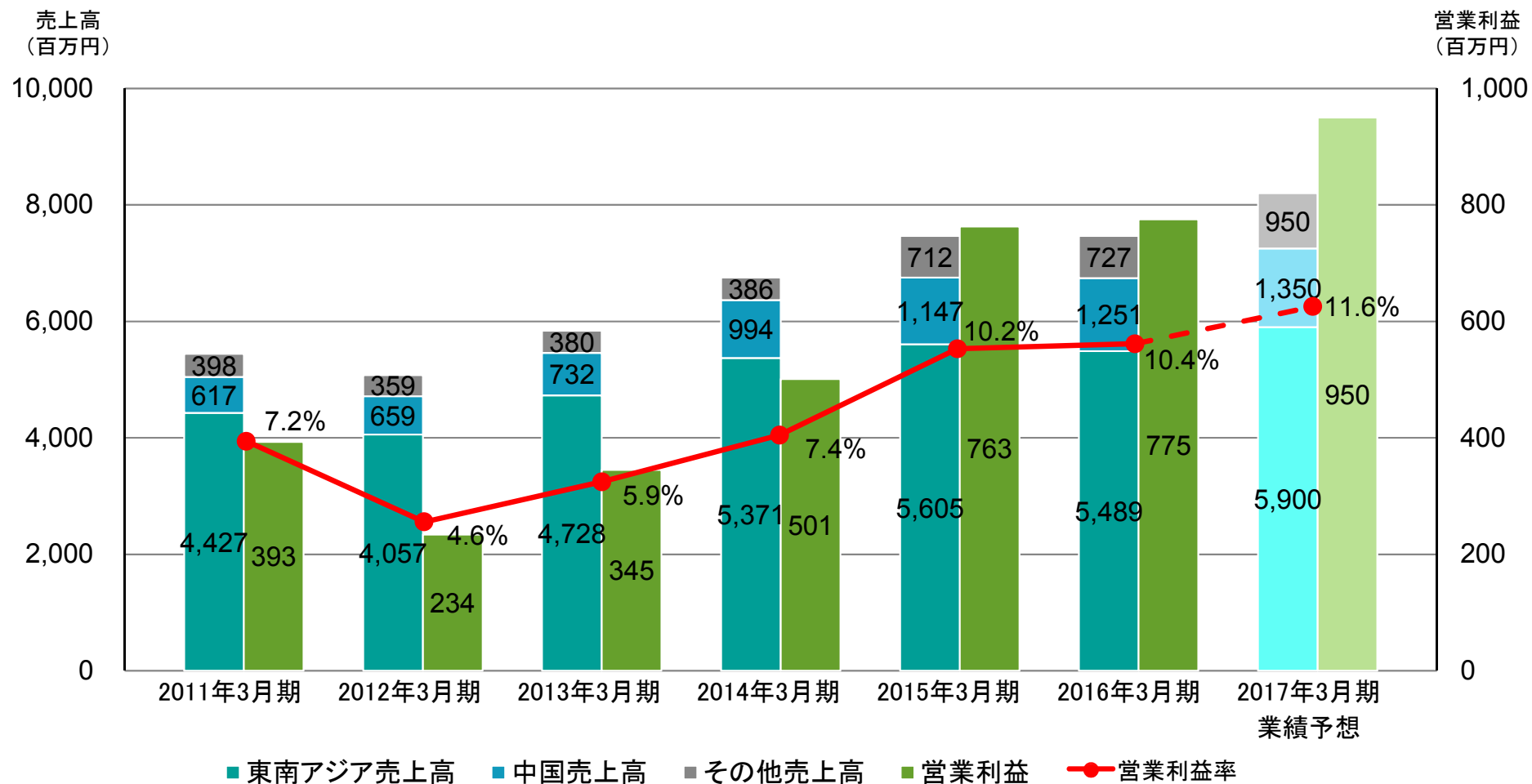


1. 経営成績の概況

④海外塗料事業 地域別売上高・営業利益推移



- 中国経済の減速など新興国の景況悪化のなか、海外事業拡大プロジェクトの推進、メキシコ合併販売会社により堅調な業績



①決算概要総括



業界環境

国内

構造物、建築分野では公共投資の抑制や現場工事の遅延等により需要が停滞するも、インフラの維持・補修需要に増加の動き。その他の分野では中国経済の低迷等から生産調整を行う企業が相次ぎ、需要は低調に推移

海外

①東南アジア:タイ・インドネシアを中心に景気が後退②中国:景気先行き不透明感から消費低調。為替・人件費高騰で生産を中国からシフトする動き③その他:北米では緩やかな景気回復基調

売上面

- 国内塗料事業、照明機器事業で増収

連結売上高 76,388 百万円 前期比 + 3,382 百万円 + 4.6%	国内塗料	55,508 百万円	+ 2,462 百万円 + 4.6%	■ 一般塗料では市況の低迷が響いたが、建築分野の塗り替え需要が好調。粉体塗料の合併会社が業績に寄与し増収
	海外塗料	7,467 百万円	+ 2 百万円 + 0.0%	■ 東南アジアでの需要停滞が長期化するも、自動車部品分野が順調なメキシコが牽引し前期並みを確保
	照明機器	9,694 百万円	+ 563 百万円 + 6.2%	■ 小売業界の新規出店や改装需要が増加し増収
	蛍光色材	1,432 百万円	+ 30 百万円 + 2.2%	■ 国内の需要は堅調に推移 ■ 海外需要も期末にかけて好転し増収

利益面

- 国内塗料事業が全体の利益増を牽引して増益

連結営業利益 5,858 百万円 前期比 + 1,430 百万円 + 32.3%	国内塗料	3,785 百万円	+ 1,432 百万円 + 60.9%	■ 高付加価値品の拡販及び原材料価格の下落により増益
	海外塗料	775 百万円	+ 12 百万円 + 1.6%	■ タイにおける在庫評価基準の見直しを実施したが、高付加価値品の拡販や原材料価格の下落により増益

2. 2016年3月期実績

②損益計算書(P/L)(連結)

(単位:百万円、%)

	実績						コメント
	2015年3月期			2016年3月期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
売上高	73,005	100.0	0.5	76,388	100.0	4.6	<ul style="list-style-type: none"> ■ 建材、建築塗り替えが好調 ■ 2015年1月設立の粉体塗料製造会社が寄与
売上総利益	20,040	27.5	△0.3	21,906	28.7	9.3	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高付加価値品の拡販 ■ 原材料価格の下落
販売費及び一般管理費	15,612	21.4	△1.4	16,047	21.0	2.8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 人件費の増加
営業利益	4,428	6.1	3.6	5,858	7.7	32.3	
経常利益	4,498	6.2	6.8	5,559	7.3	23.6	<ul style="list-style-type: none"> ■ 為替差損益△172 (為替差益63→為替差損109) ■ 製品補償引当金繰入額△147(49→196)
親会社株主に帰属する当期純利益	2,756	3.8	6.4	3,614	4.7	31.1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 退職給付制度終了益剥落△238、固定資産売却損益333 (売却損益△60→売却損益273)
減価償却費	1,759	—	△11.3	1,913	—	8.8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2015年3月期の設備投資増加を受け、減価償却費増加
設備投資額	2,225	—	22.1	1,811	—	△18.6	<ul style="list-style-type: none"> ■ 前期比△414 ■ 内訳(国内)△5 (海外)△426 (照明)45 (蛍光)△2 (その他)△26

2. 2016年3月期実績

③セグメント別売上高・営業利益(連結)

(単位:百万円、%)

	実績						コメント
	2015年3月期			2016年3月期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
売上高	73,005	100.0	0.5	76,388	100.0	4.6	
国内塗料	53,045	72.7	△0.7	55,508	72.7	4.6	■ 建材、建築塗り替えが好調
海外塗料	7,464	10.2	10.6	7,467	9.8	0.0	■ 2015年1月設立の粉体塗料製造会社が寄与 ■ 東南アジアは売上低調も、自動車関連でメキシコが好調
照明機器	9,131	12.5	1.5	9,694	12.7	6.2	■ 小売業界における設備投資の回復により増収
蛍光色材	1,401	1.9	△9.0	1,432	1.9	2.2	
その他	1,961	2.7	3.8	2,284	2.9	16.5	■ 塗装工事事業の受注増加により増収
営業利益	4,428	100.0	3.6	5,858	100.0	32.3	
国内塗料	2,353	53.1	△7.0	3,785	64.6	60.9	■ 継続的な高付加価値品の拡販と原材料価格下落により増益
海外塗料	763	17.2	52.2	775	13.2	1.6	■ タイにおける在庫評価基準の見直しを実施したが、高付加価値品の拡販や原材料価格の下落により増益
照明機器	785	17.7	6.1	688	11.7	△12.4	■ 新基幹システム導入による経費増及び蛍光灯関連在庫の評価減により減益
蛍光色材	154	3.5	△33.1	171	2.9	11.1	
その他	177	4.1	5.2	202	3.6	14.0	
調整額	194	4.4	91.2	235	4.0	21.4	

2. 2016年3月期実績

④貸借対照表(B/S)(連結)

(単位:百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	増減額	コメント
流動資産	32,458	31,779	△679	
現金及び預金	2,498	3,125	627	■ 営業活動による増加5,785に対し、借入金の返済による△3,215、設備投資の支払等による△1,325、為替の影響による△120、その他支払による△498
受取手形及び売掛金	17,562	17,489	△73	■ (国内)△294 (照明)248
たな卸資産	10,085	9,362	△723	■ (国内)△86 (海外)△624(タイ評価減△234含む) ■ (照明)△23(評価減△274含む)
その他流動資産	2,311	1,801	△509	
固定資産	36,794	35,953	△841	
有形固定資産	24,271	23,629	△641	■ 設備投資による増加1,551に対し、減価償却△1,818、タイ及びマレーシア土地・建物売却△137
無形固定資産	716	753	36	
投資その他の資産	11,805	11,570	△235	
資産合計	69,252	67,732	△1,520	
負債合計	40,811	37,112	△3,698	
(借入金残高)	(13,183)	(9,968)	(△3,215)	■ 借入金の返済△3,226 為替の影響による11
純資産合計	28,441	30,620	2,178	■ 親会社株主に帰属する当期純利益3,614に対し、配当金支払△445、自己株式取得△250、その他の包括利益累計額△753
負債純資産合計	69,252	67,732	△1,520	

2. 2016年3月期実績

⑤ キャッシュ・フロー計算書(連結)



(単位:百万円)

	2015年3月期	2016年3月期	増減額	コメント
営業活動による キャッシュ・フロー	4,783	5,785	1,001	■ 各事業セグメントの利益
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,838	△718	1,119	■ 設備投資の支払減少651(1,976→1,325)
財務活動による キャッシュ・フロー	△2,977	△4,317	△1,339	■ 長期借入金の返済増加628(2,597→3,226) ■ 自己株式取得250
現金及び現金同等物に 係る換算差額	96	△120	△217	
現金及び現金同等物の 増減額	64	628	564	
現金及び現金同等物の 期首残高	2,379	2,444	64	
現金及び現金同等物の 期末残高	2,444	3,072	628	

3. 2017年3月期業績予想

①業績予想のポイント

売上面

- 前期比増収を継続

連結売上高
78,000百万円
前期比
+1,611百万円
+2.1%

国内塗料

56,500百万円

+991百万円
+1.8%

- 公共工事が回復
- 五輪関連需要も顕在化へ

海外塗料

8,200百万円

+732百万円
+9.8%

- 新規顧客の開拓を進める
- 為替変動次第で見直しも

利益面

- 前期比増益、過去最高益を更新

連結営業利益
6,100百万円
前期比
+241百万円
+4.1%

国内塗料

3,700百万円

△85百万円
△2.2%

- 原材料安を反映した販売単価の下落を想定
- 年度後半以降の原材料価格上昇可能性織り込み

海外塗料

950百万円

+174百万円
+22.6%

- 高付加価値化の推進
- 前期に在庫の評価減を実施済み

3. 2017年3月期業績予想

②損益計算書(P/L)業績予想(連結)

(単位:百万円、%)

	実績			業績予想			コメント
	2016年3月期			2017年3月期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
売上高	76,388	100.0	4.6	78,000	100.0	2.1	■ 公共工事の回復、五輪関連需要や震災復興需要により堅調を想定
売上総利益	21,906	28.7	9.3	22,500	28.8	2.7	■ 高付加価値化の継続 ■ 原材料価格上昇可能性を織り込み
販売費及び一般管理費	16,047	21.0	2.8	16,400	21.0	2.2	
営業利益	5,858	7.7	32.3	6,100	7.8	4.1	
経常利益	5,559	7.3	23.6	6,100	7.8	9.7	
親会社株主に 帰属する 当期純利益	3,614	4.7	31.1	4,000	5.1	10.7	
減価償却費	1,913	—	8.8	1,800	—	△5.9	■ 2016年3月期の設備投資額を反映
設備投資額	1,811	—	△18.6	1,750	—	△3.4	■ 2017年3月期は更新投資がメイン

3. 2017年3月期業績予想

③セグメント別売上高・営業利益(連結)

(単位:百万円、%)

	実績			業績予想			コメント
	2016年3月期			2017年3月期			
	金額	構成比	前期比増減率	金額	構成比	前期比増減率	
売上高	76,388	100.0	4.6	78,000	100.0	2.1	
国内塗料	55,508	72.7	4.6	56,500	72.4	1.8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 五輪関連需要が本格化 ■ 震災からの復興需要が発生
海外塗料	7,467	9.8	0.0	8,200	10.5	9.8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規開拓の伸展
照明機器	9,694	12.7	6.2	9,700	12.4	0.1	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2016年3月期並みの小売業界の設備投資需要を想定
蛍光色材	1,432	1.9	2.2	1,450	1.9	1.2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 防災、減災需要の増加を見込む
その他	2,284	2.9	16.5	2,150	2.8	△5.9	
営業利益	5,858	100.0	32.3	6,100	100.0	4.1	
国内塗料	3,785	64.6	60.9	3,700	60.7	△2.2	<ul style="list-style-type: none"> ■ 顧客の価格値下げ要求を想定 ■ 原材料価格上昇可能性を織り込み
海外塗料	775	13.2	1.6	950	15.6	22.6	<ul style="list-style-type: none"> ■ 高付加価値化の推進 ■ 2016年3月期に在庫の評価減を実施
照明機器	688	11.7	△12.4	900	14.8	30.8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 2016年3月期に蛍光灯関連在庫の評価減を実施
蛍光色材	171	2.9	11.1	170	2.8	△0.6	
その他	202	3.6	14.0	150	2.4	△25.7	
調整額	235	4.0	21.4	230	3.7	△2.1	

3. 2017年3月期業績予想

④海外地域別売上高



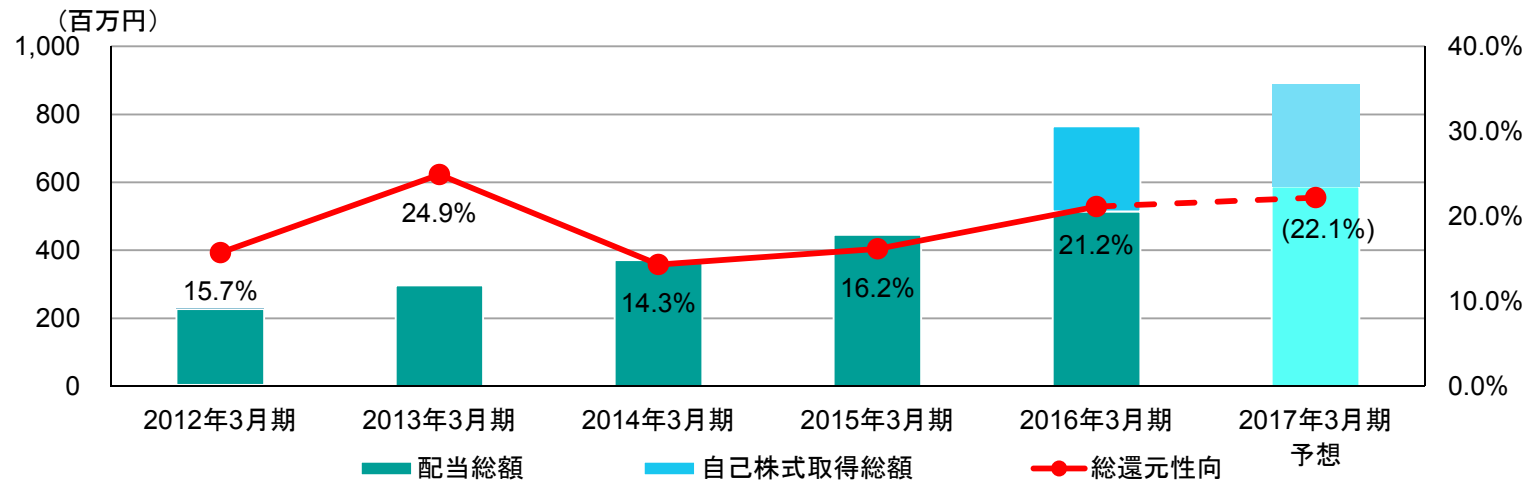
(単位:百万円、%)

	実績			業績予想			コメント
	2016年3月期			2017年3月期			
	金額	構成比	前期比 増減率	金額	構成比	前期比 増減率	
海外 計	7,467	100.0	0.0	8,200	100.0	9.8	<ul style="list-style-type: none"> ■ 新規顧客の開拓を中心に売上増加を図る ■ 構造物分野の海外展開を積極化
東南アジア	5,489	73.5	△2.1	5,900	72.0	7.5	
中国	1,251	16.8	9.0	1,350	16.5	7.9	
その他	727	9.7	2.0	950	11.5	30.7	<ul style="list-style-type: none"> ■ メキシコでの合弁事業の伸展

4. 株主還元

総還元性向推移

- 業績に連動した継続的な増配を着実に実施。2017年3月期は0.5円増配の4.0円配当を実施予定。2016年5月13日付取締役会において1,500,000株、3億円を上限とした自己株式取得を決議(取得期間2016年5月16日～2016年12月22日)



株主優待

- 2015年5月13日開催の取締役会において、株主優待制度の導入を決定
- 2016年も下記内容にて実施

保有株式数	優待内容
1,000株以上10,000株未満	当社オリジナルQUOカード 1,000円分
10,000株以上	当社オリジナルQUOカード 3,000円分

II. 經營戰略

1. 事業環境



- 国内ではインフラの維持・補修需要は拡大も趨勢的に漸減傾向。環境負荷低減、高機能化対応がテーマ
- 新興国では塗料需要拡大、日系メーカーの海外生産数量は大幅な成長、インフラ投資需要拡大に期待

国内市場動向

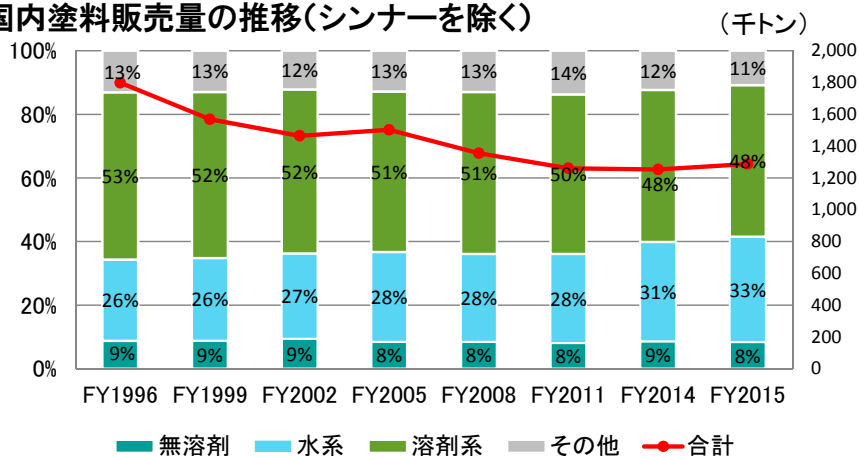
インフラの維持・補修需要の拡大

- 2020年の東京五輪に向け、数年間は首都圏を中心にインフラの維持・補修需要に期待
- 中長期的には国内塗料市場は趨勢的に漸減傾向

環境負荷低減／高機能化

- 環境規制の影響により弱溶剤塗料、粉体塗料、水性塗料などの環境負荷低減形塗料への需要が拡大
- 高機能化①高耐久、高耐候性等、②遮熱、断熱、耐火等の特殊機能、③素材・基材の変化への対応

国内塗料販売量の推移(シンナーを除く)



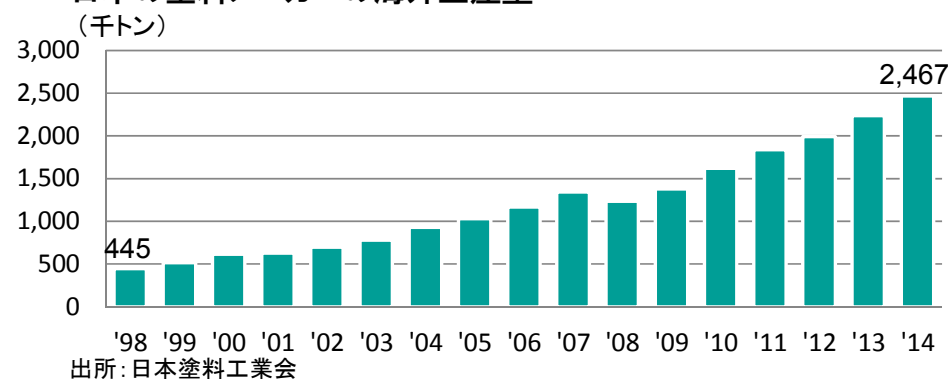
出所: 日本塗料工業会

海外市場動向

新興国塗料需要の拡大

- 新興国での塗料需要の拡大に伴い、日系塗料メーカーの海外生産数量は大幅な成長、海外市場の要求に対応した独自性のある製品開発と現地生産供給体制強化
- 電力・鉄道・道路網整備等が予測され、重防食塗料への需要が拡大
 - 中国: 景気減速の下支えとして公共インフラ投資は堅調
 - インド: 景気配慮型財政政策による大型インフラ投資拡大
- 中国・東南アジア市場における建築用塗料等補修向け塗料の需要拡大への期待

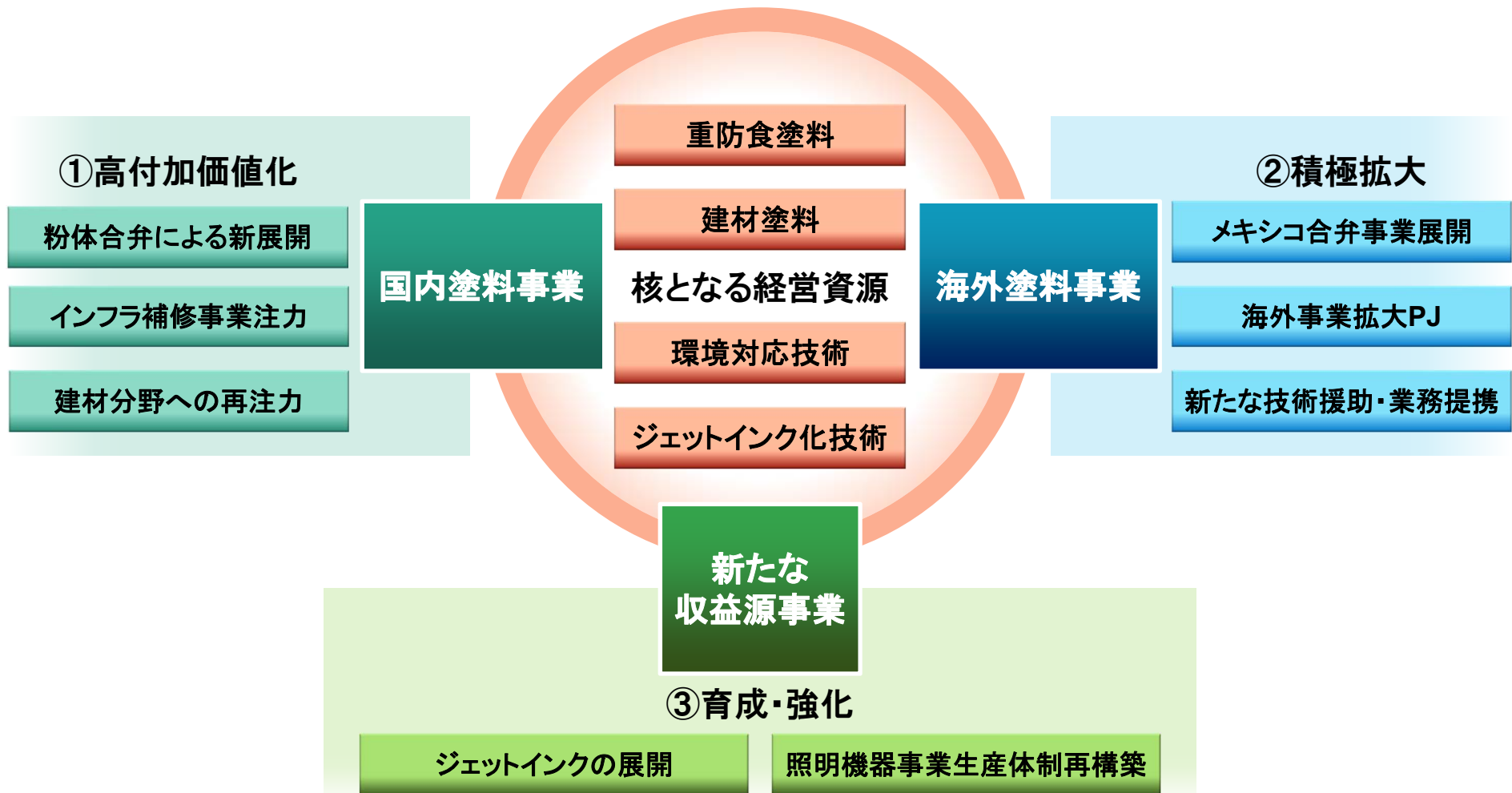
日本の塗料メーカーの海外生産量



出所: 日本塗料工業会

2. 経営戦略

- DNTグループの核となる経営資源を軸に国内塗料事業の高付加価値化、海外塗料事業の積極拡大、新たな収益源事業の育成・強化に取り組む



3. 新中期経営計画概要(2015年3月期～2017年3月期)①



- 前中計期間に構築した海外塗料事業・ジェットインク事業の成長基盤をフル活用した売上高・利益拡大
- 国内塗料事業・照明機器事業についてはエンドユーザーのニーズを反映する商品開発・販売戦略を展開

支柱施策	①国内塗料事業の高付加価値化			
	②海外塗料事業の積極拡大			
	③新たな収益源事業の育成・強化			
数値目標 連結計		2014年3月期実績	2017年3月期	
			当初計画(2014年3月期比)	業績予想(2014年3月期比)
	売上高	726億円	800億円 (+74億円、10.2%)	780億円 (+54億円、7.4%)
	営業利益	43億円	59億円 (+16億円、37.2%)	61億円 (+18億円、41.9%)
	経常利益	42億円	60億円 (+18億円、42.8%)	61億円 (+19億円、45.2%)
経常利益率	5.8%		7.5% (+1.7ポイント)	7.8% (+2.0ポイント)

3. 新中期経営計画概要(2015年3月期～2017年3月期)②



- 国内塗料事業については、粉体合弁事業による購買力強化、生産効率の向上、外注の内製化を伸展
- ジェットインク事業についてはプロジェクトを発足、既存重点先、新規顧客両面で市場を開拓

目標		具体的施策																					
セグメント別売上高計画	セグメント別営業利益計画																						
国内塗料事業	<p>(億円)</p> <table border="1"> <tr><th>期</th><th>売上高</th></tr> <tr><td>'14/3期</td><td>534</td></tr> <tr><td>'16/3期</td><td>555</td></tr> <tr><td>'17/3期 (当初計画)</td><td>567 (+33)</td></tr> <tr><td>'17/3期 (業績予想)</td><td>565</td></tr> </table>	期	売上高	'14/3期	534	'16/3期	555	'17/3期 (当初計画)	567 (+33)	'17/3期 (業績予想)	565	<p>(億円)</p> <table border="1"> <tr><th>期</th><th>営業利益</th></tr> <tr><td>'14/3期</td><td>25</td></tr> <tr><td>'16/3期</td><td>38</td></tr> <tr><td>'17/3期 (当初計画)</td><td>33 (+8)</td></tr> <tr><td>'17/3期 (業績予想)</td><td>37</td></tr> </table>	期	営業利益	'14/3期	25	'16/3期	38	'17/3期 (当初計画)	33 (+8)	'17/3期 (業績予想)	37	<p>粉体合弁事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 関西ペイント(株)連結子会社久保孝ペイント(株)と当社の粉体塗料事業を統合(出資51%) ■ 原材料や製造のコストシナジー効果の導出 <p>インフラコーティングPJ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 東京五輪に向け関連施設需要や都市部のインフラ整備需要をグループ一体となったプロジェクトチーム体制で取組む ■ DNT塗膜診断システムの活用 <p>リフォーム事業拡大PJ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 当社の建材塗料で施工された物件の塗り替え工事と塗料需要の取り込み <p>ジェットインク販売増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 既存顧客には新機種対応で拡販 ■ 新規顧客はIJフロンティアPJにより市場開拓を伸展
	期	売上高																					
'14/3期	534																						
'16/3期	555																						
'17/3期 (当初計画)	567 (+33)																						
'17/3期 (業績予想)	565																						
期	営業利益																						
'14/3期	25																						
'16/3期	38																						
'17/3期 (当初計画)	33 (+8)																						
'17/3期 (業績予想)	37																						

3. 新中期経営計画概要(2015年3月期～2017年3月期)③



- 海外塗料事業はメキシコでの合弁販売会社を軸に好調な北米自動車部品向け塗料の拡販を図る
- 照明機器事業は効率化を伸展、コスト競争力を強化するとともに営業強化策を伸展

		目標																							
		セグメント別売上高計画		セグメント別営業利益計画	具体的施策																				
海外塗料事業	セグメント別売上高計画 (億円)	<table border="1"> <tr><th>期</th><th>売上高 (億円)</th></tr> <tr><td>'14/3期</td><td>68</td></tr> <tr><td>'16/3期</td><td>75</td></tr> <tr><td>'17/3期</td><td>102 (+34)</td></tr> <tr><td>業績予想</td><td>82</td></tr> </table>	期	売上高 (億円)	'14/3期	68	'16/3期	75	'17/3期	102 (+34)	業績予想	82		<table border="1"> <tr><th>期</th><th>営業利益 (億円)</th></tr> <tr><td>'14/3期</td><td>5</td></tr> <tr><td>'16/3期</td><td>7</td></tr> <tr><td>'17/3期</td><td>11 (+6)</td></tr> <tr><td>業績予想</td><td>9</td></tr> </table>	期	営業利益 (億円)	'14/3期	5	'16/3期	7	'17/3期	11 (+6)	業績予想	9	<p>メキシコ合弁事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 関西ペイント(株)との合弁販売会社を通じ、自動車部品向け塗料の販売拡大を図る <p>海外事業拡大PJ</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 国内取引先からの案件情報をもとに海外での事業開拓
	期	売上高 (億円)																							
'14/3期	68																								
'16/3期	75																								
'17/3期	102 (+34)																								
業績予想	82																								
期	営業利益 (億円)																								
'14/3期	5																								
'16/3期	7																								
'17/3期	11 (+6)																								
業績予想	9																								
照明機器事業	セグメント別売上高計画 (億円)	<table border="1"> <tr><th>期</th><th>売上高 (億円)</th></tr> <tr><td>'14/3期</td><td>90</td></tr> <tr><td>'16/3期</td><td>97</td></tr> <tr><td>'17/3期</td><td>97 (+7)</td></tr> <tr><td>業績予想</td><td>97</td></tr> </table>	期	売上高 (億円)	'14/3期	90	'16/3期	97	'17/3期	97 (+7)	業績予想	97		<table border="1"> <tr><th>期</th><th>営業利益 (億円)</th></tr> <tr><td>'14/3期</td><td>7</td></tr> <tr><td>'16/3期</td><td>6</td></tr> <tr><td>'17/3期</td><td>9 (+2)</td></tr> <tr><td>業績予想</td><td>9</td></tr> </table>	期	営業利益 (億円)	'14/3期	7	'16/3期	6	'17/3期	9 (+2)	業績予想	9	<p>コスト競争力強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 生産体制を再構築 <p>営業強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 新市場開拓 ■ 新商品積極投入
期	売上高 (億円)																								
'14/3期	90																								
'16/3期	97																								
'17/3期	97 (+7)																								
業績予想	97																								
期	営業利益 (億円)																								
'14/3期	7																								
'16/3期	6																								
'17/3期	9 (+2)																								
業績予想	9																								

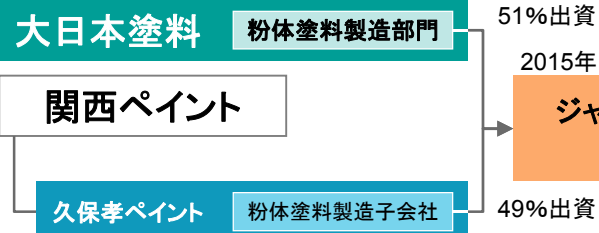
4. 経営戦略トピックス

① 国内塗料事業の高付加価値化

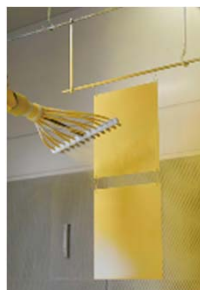
- 高い収益性が期待できる粉体塗料事業を他社と合併により再編、効率性向上とコスト削減による競争力強化を実現
- 東京五輪に向け、「インフラコーティングプロジェクト」を立ち上げ、構造物の塗り替え需要に対応

粉体塗料事業の再編

- ジャパンパウダー塗料製造(株)の設立
 - 関西ペイント(株)連結子会社の久保孝ペイント(株)と共同での新設分割により、国内における粉体塗料の製造事業の合併会社を設立



- 揮発性有機化合物(VOC)を含まない、人と環境にやさしい塗料として成長が期待される。環境保全の今後を見つめた新しいビジネスモデルの構築
- 環境対応に優れた成長分野であるため、合併による規模拡大で生産効率の向上、調達コスト低減を目指す



【粉体塗料静電塗装】

インフラコーティングプロジェクト

- 2014年4月から建築・構造物塗料事業部を中心とした「インフラコーティングプロジェクト」を立ち上げ
 - 2020年東京五輪の関連施設及び関東地域におけるインフラの維持と補修
 - 構造物の塗り替え需要が本格化しつつある動きへの対応



【里美大橋(茨城):塗り替え前】



【塗り替え後】

- キーワード

環境配慮

溶剤系からVOC削減に効果のある水性塗料への転換

LCC低減

(ライフサイクルコスト)

防錆性と耐久性を確保する重防食塗料によるライフサイクルの長期化とメンテナンスコスト低減

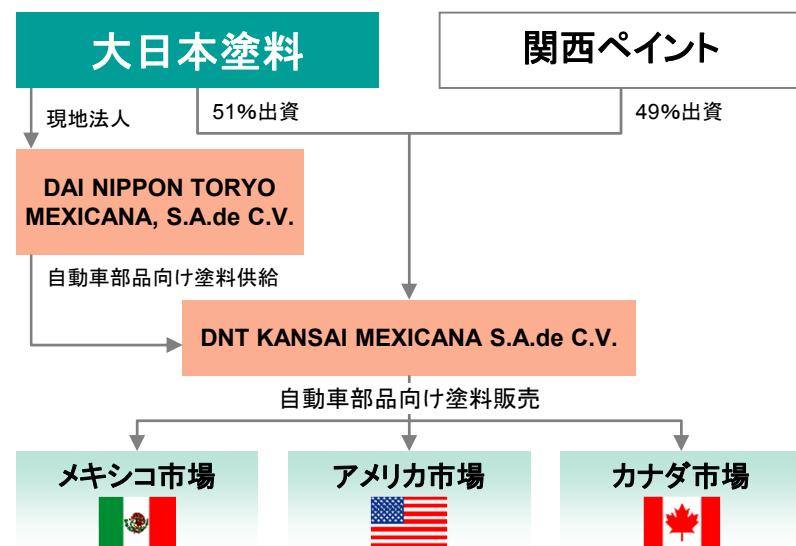
4. 経営戦略トピックス

② 海外塗料事業の積極拡大

- 自動車部品など工業用塗料の分野で基盤を積極拡大、メキシコ合併事業においては既存の生産拠点の販路拡大に注力
- 重防食塗料案件獲得に向け、グローバルに活動展開

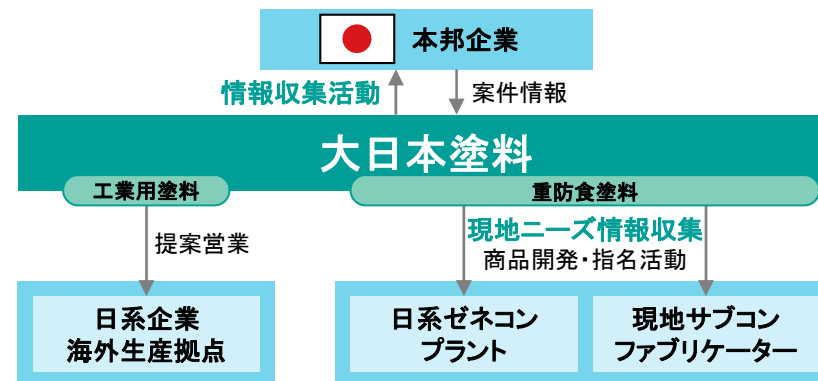
メキシコ合併事業

- 2013年6月、関西ペイント(株)とメキシコ合衆国、アメリカ合衆国及びカナダにおける自動車部品メーカー向け塗料製品の販売事業を行う合併会社をメキシコ合衆国に設立
- 自動車部品のトップティアワンに対し、きめ細かい対応を実施、北米でのシェアの拡大を目指す



海外事業拡大プロジェクト

- 2012年より、国内で取引のある日系企業をピックアップし、海外での新規顧客開拓と事業展開を積極的に推進
- 自動車用部品等工業用塗料分野で海外事業基盤を確立し、経営の安定性を高める
- その基盤の上で、海外インフラ事業向け重防食塗料ビジネスをグローバルに展開
- 重防食塗料では、サブコン・ファブリケーターが発注先の決定権を持つ場合が多くなってきており、要求されるコスト及び現地ニーズに対応した商品開発を推進



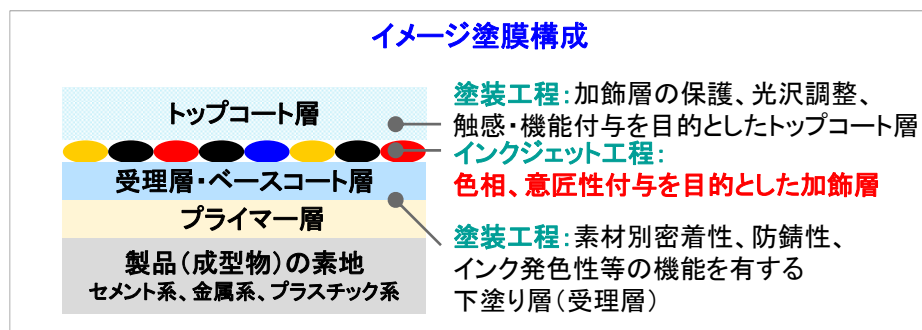
4. 経営戦略トピックス

③新たな収益源事業の育成・強化

- 塗料事業とジェットインク事業の両方を展開している強みを生かし、建材分野を中心に新しい塗装システムを提案
- LED時代にも業務用照明機器での高いシェアは維持、効率化を進めつつ新分野を開拓

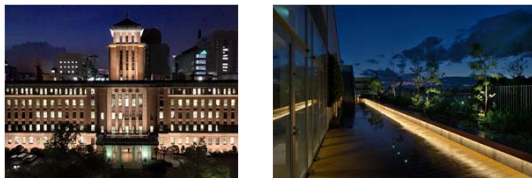
ジェットインク事業

- 当社はインクジェットの加飾技術、塗料の積層技術及びライン管理技術を有する
- インクジェット加飾のインライン生産を成功に導く最大のポイントは、「塗料とインクの相互の調整」。塗料とインクの複合塗膜を形成するためには、両方に知見のある当社が最適
- IJフロンティアプロジェクトを発足、顧客と用途拡大を目指す



照明機器事業

- 大日本塗料の生産効率改善ノウハウを、照明機器事業に適用、さらなる利益率改善と競争力の拡大を目指す
- LEDの先を見据え、有機EL照明の開発も検討



- 建築化照明分野で従来獲得できていなかった、屋外、半屋外用照明のマーケットに本格的に取組む

ナノ粒子シリーズ

- 金属や無機酸化物のナノ粒子は、光学的機能、電気的機能など多様な機能を発現
- ナノ分散技術を用いた機能性ナノコーティング材へ応用

帯電防止機能	各種光学フィルム、帯電防止材料
屈折率調整機能	反射防止フィルム、インデックスマッチング、光学レンズ
光吸収機能	診断薬、波長吸収材料、反射材料、センシング材料
発光機能	診断薬、センシング、セキュリティ



銀ナノプレート分散液
(光吸収)



金量子ドット分散液
(発光)

5. 2016年3月期までの主要実績



- 国内塗料は高付加価値商品での利益拡大、海外は日系企業フォローによるインフラ需要に手応え
- 新規事業のジェットインクの導入が着実に伸展、リフォーム事業は大幅な売上伸長

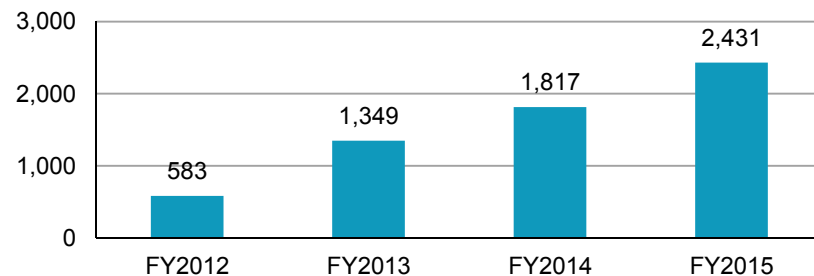
国内塗料の高付加価値化

- インフラの維持・補修需要に焦点を当て、「DNT塗膜診断システム」で解析を行うなど、高付加価値を提供
- 五輪関連需要、遮熱性道路舗装用塗料の需要の取り込み
- サビシャットなど差別化商品の出荷が拡大

リフォーム事業拡大PJ

- サイディングボードのメンテナンスサービスに注力、商品力をもとにシェアを拡大
- 大手ハウスメーカー系リフォーム会社との連携体制の拡大とノウハウの他ルートへの活用で事業拡大を図る

売上高(百万円)



ジェットインク事業

- 新規事業のジェットインクの導入が着実に伸展
- インクジェットプリンターの導入に手応え

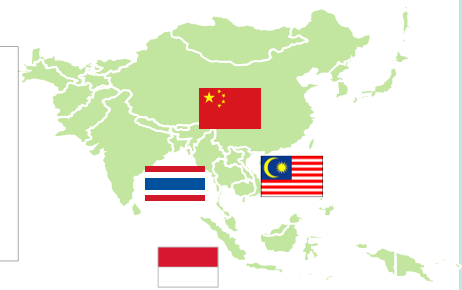
メキシコ合併事業

- 北米における好調な自動車関連需要を捉え、日系部品メーカーを中心とした新規顧客の開拓を実現、売上シェア拡大が伸展

海外事業拡大プロジェクト

- 新興国の成長鈍化の中、日系企業フォローによる事業基盤の拡大は伸展、大型プロジェクトへの参画を実現

- マレーシア火力発電所向け重防食塗料受注
- 中国・タイにおける工業用塗料新規顧客の獲得
- インドネシアにおける自動車部品向け高付加価値塗料の納入



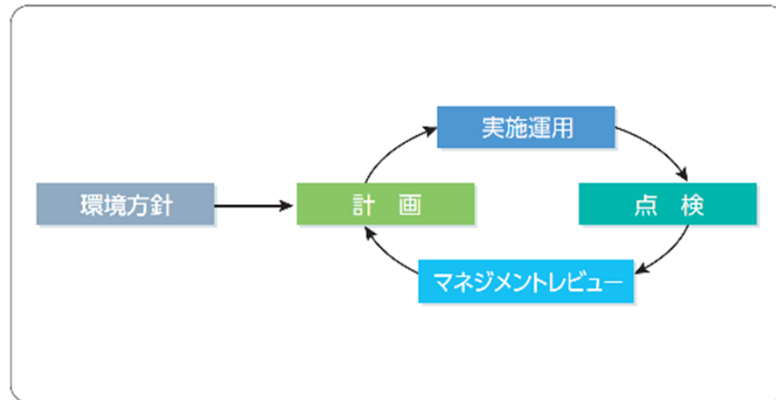
6. 環境・社会への取組み



- 創業の原点であるモノづくりの精神を受け継ぎながら、環境対応技術の開発に積極的な取組みを継続
- 環境方針のもと研究開発・原料調達・生産・流通販売・塗装を経て廃棄に至るまでライフサイクル全体を通し、環境影響を最小とする

環境マネジメントシステムの確立・実施

■ 環境マネジメントの流れ



■ 環境マネジメントシステム

- 大阪、小牧、那須の3事業所でISO14001の認証を取得、省エネルギーを徹底した事業活動を通じて二酸化炭素の発生量原単位の削減に取組み、環境対応形塗料など市場ニーズに対応した商品の開発を積極的に展開
- 環境マネジメントシステム(EMS)を基軸としながら、「環境負荷が小さく、持続可能な経済社会の構築」へ向けて、グループ全体での環境経営体制を強化

日本政策投資銀行による塗料業界初の環境格付取得

- 当社は日本政策投資銀行(DBJ)から、「環境への配慮に対する取組みが先進的」との格付を取得し、「DBJ環境格付」に基づく融資を受けた。評価のポイントとして、下記内容が高く評価
 - 環境配慮製品の売上高を拡大させている点
 - 独自の「環境セミナー」を通じ、幅広いステークホルダーに対する製品の環境情報開示及び環境に配慮した塗料の普及に努めている点
 - 国内外の生産子会社において環境マネジメントシステムの構築を推進し、グループ全体で環境配慮製品へ取り組んでいる点
- 今後も「環境負荷が小さく持続可能な社会を築いていくことが重要である」との認識のもと、環境への取組みを継続

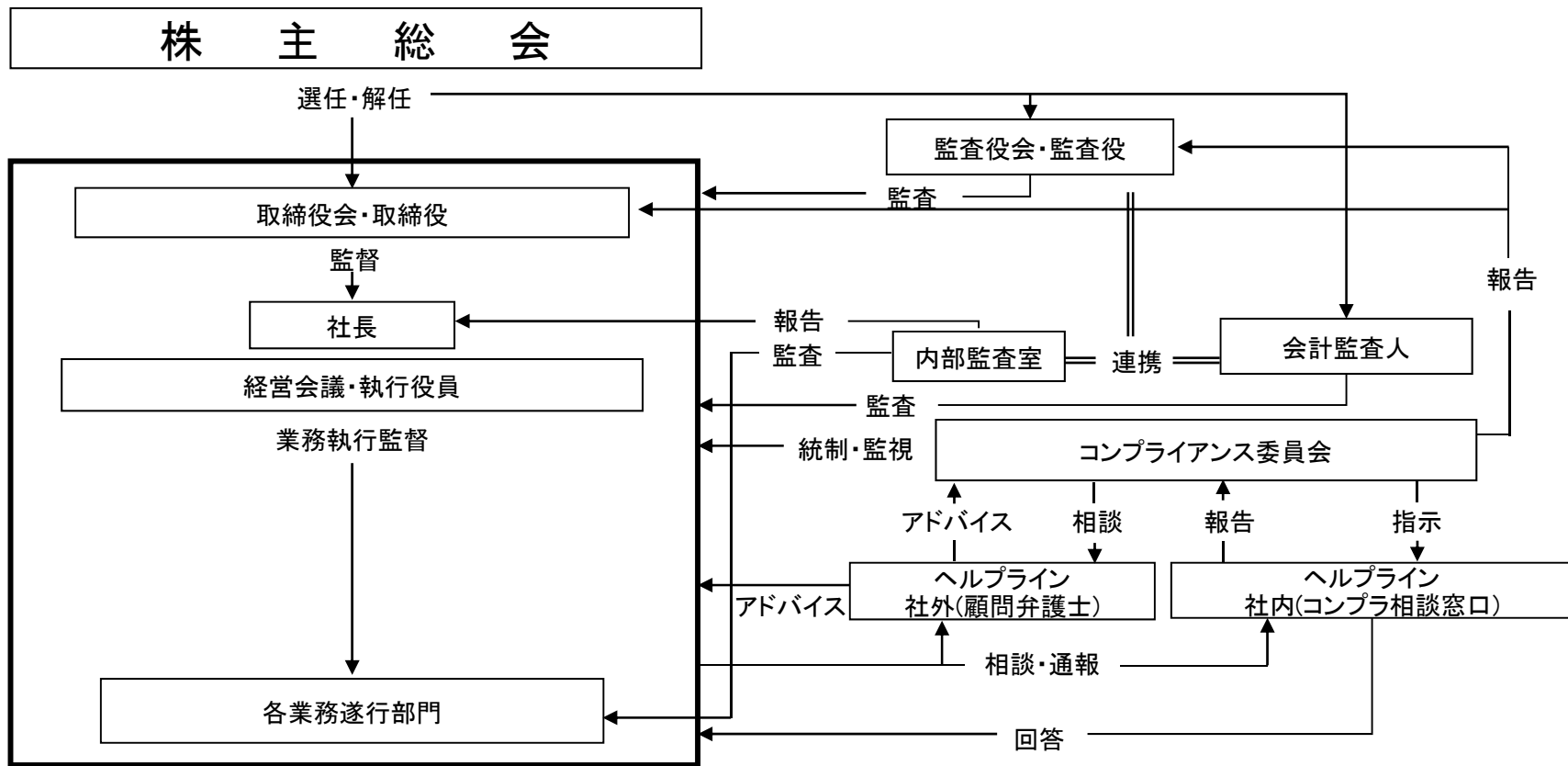


7. ガバナンス体制



- 経営の透明性を確保、コーポレートガバナンス強化に向け必要な体制整備を推進
- コーポレートガバナンス・コードに対する当社の基本的な考え方とその枠組み、運営に係る方針を定めた「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を2015年10月29日に制定

ガバナンス体制





Appendix.会社概要及び事業内容

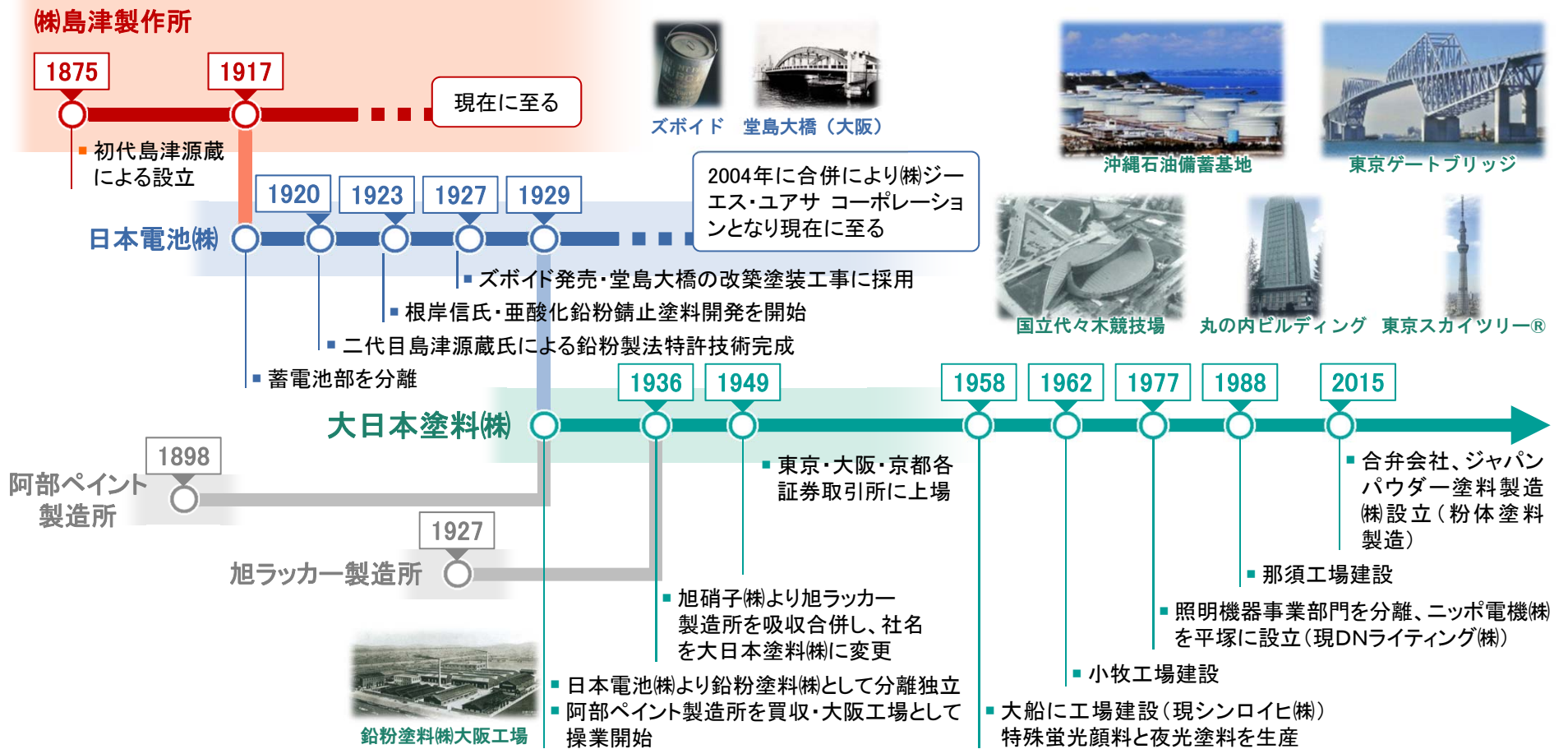
1. 会社概要



会社名	大日本塗料株式会社	Dai Nippon Toryo Company, Limited
本社	大阪市此花区西九条六丁目1番124号	
設立	1929年7月25日	
事業内容	塗料・ジェットインクの製造、販売	
代表者	取締役社長 岩浅 壽二郎	
売上高	76,388百万円	(連結/2016年3月期)
経常利益	5,559百万円	(連結/2016年3月期)
親会社株主に帰属する当期純利益	3,614百万円	(連結/2016年3月期)
資本金	8,827百万円	(連結/2016年3月期末)
従業員数	2,158名	(連結/2016年3月期末)
証券コード	4611 東証第一部	

2. 沿革

- (株)島津製作所から発祥の日本電池(株)(現(株)ジーエス・ユアサ コーポレーション)において開発された亜酸化鉛粉錆止塗料を基に、1929年日本電池(株)より分離、独立
- 創業製品「ズボイド」に始まり建築物・構造物の重防食塗料を中心に、日本の塗料技術をリード



3. 国内拠点



■ 国内24拠点(本社・事業所5拠点、営業所19拠点)、連結子会社16社

- 本社
- 事業所(工場・研究所・製造所)
- 営業所
- 連結子会社



4. 海外拠点



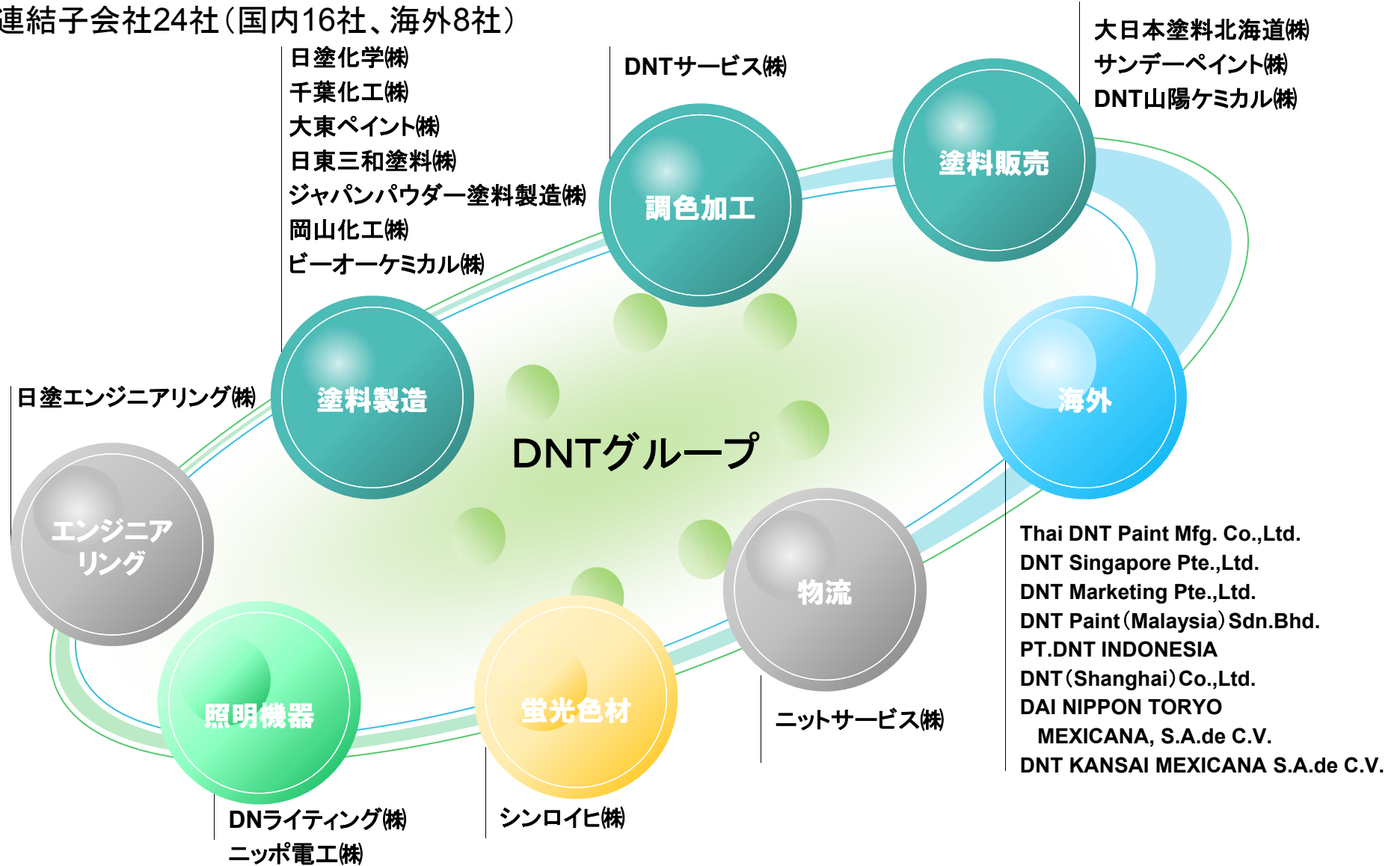
■ 海外10拠点（海外工場 6拠点）



5. DNTグループ概要



■ 連結子会社24社(国内16社、海外8社)



6.事業内容

①国内塗料事業(1)商品力と顧客基盤

- 下塗りから上塗りまでを当社塗料で完結できるトータルシステムの提供で最適な塗装仕様を実現
- 新築時から塗り替え(維持・補修)時まで塗装物のライフサイクルをカバーするビジネスモデルにより確立した強固な顧客基盤

技術力に裏打ちされた商品力

下塗りから上塗りまでを当社塗料で完結可能なシステムを提供

構造物

超耐久性塗装システム:
VフロンHBシリーズ
DNT水性重防食システム

建材

インラインシーラーから
オーバーコートまで
当社仕様による

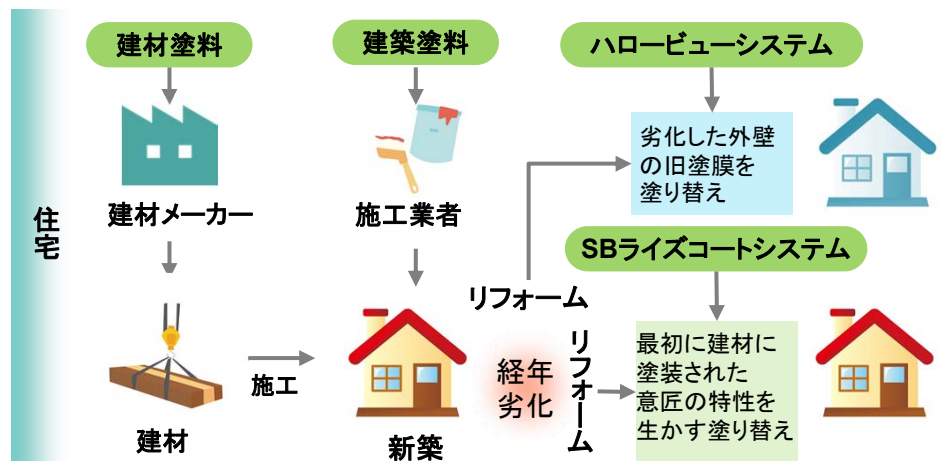
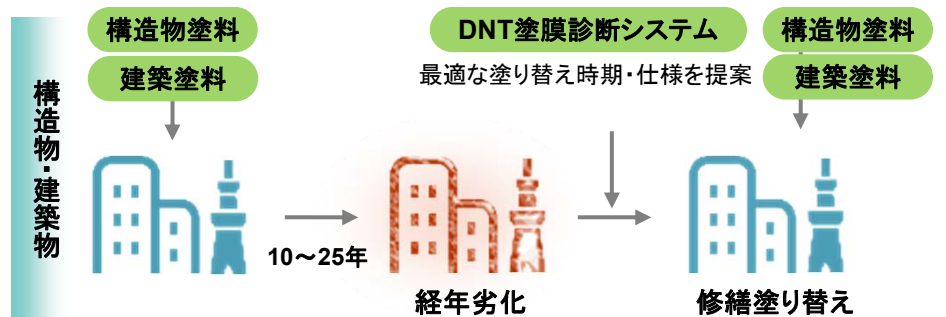
- 高い品質水準維持のために下塗りから上塗りまで、最適な塗装仕様を提供

「塗装システム」として提案・提供 シーラーからオーバーコートまで取扱い



新築から塗り替えまで一貫したビジネスモデル

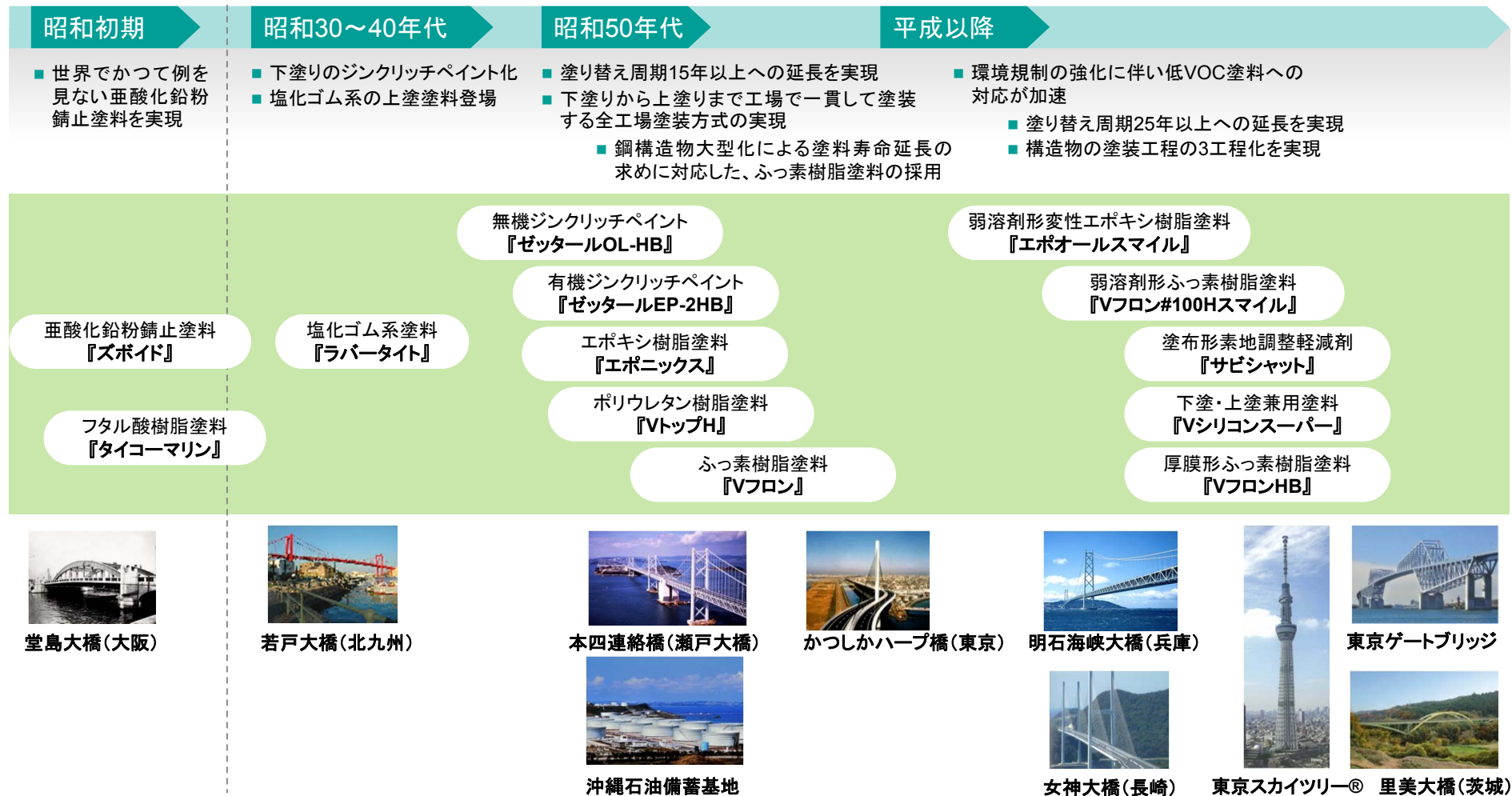
多様なサービス・品揃えにより塗装物のライフサイクルをカバー



6.事業内容

①国内塗料事業(2)コア技術としての重防食塗料

- 当社創業以来のコア技術、製品力と技術力に裏打ちされた長年に亘る実績
- 環境に配慮し、塗装工程の短縮、塗り替え周期の長期化を実現する防食技術



6.事業内容

①国内塗料事業(3)建材塗料でトップシェア

- 重防食塗料と並んだコアビジネス、窯業建材用塗料では国内トップシェア(40%)
- 機能性塗料、高耐久性塗料などラインアップも多岐に亘る
- ジェットインクとの組み合わせによる高意匠化技術の展開を図る

建材塗料における取組み

建材塗料の差別化要件

高耐久性

機能性

高意匠性

1987年9月 K(建材)プロジェクト発足

1993年5月 千葉化工(株)稼働開始
- 建材向け水性塗料の需要増加対応
- 需要地近くの生産拠点

- 建材のライフサイクルにおいて、新築からリフォームまでカバーするビジネスモデルを確立
- プレハブ化時代にプロジェクトを立ち上げ、住宅建設が最も伸長している時代にNo.1シェアを実現
- 鋼板から始まり、窯業系建材として外壁材用の建材塗料も開発

SBライズコートシステム



- 新築時の建材に塗装された塗料がリフォーム段階に入った時に、高意匠性のある現行意匠(レンガ調など)を生かし、劣化した塗膜の上に「クリアー塗料」を塗布

最近の開発技術

高耐久性

- 長期塗膜保証(15年、20年)を可能とする有機無機複合樹脂
- ふっ素樹脂クリアーの展開

機能性

- セルフクリーニング機能による防汚機能を実現するため、オーバーコート剤、一液親水クリアーを開発

高意匠性

- ジェットインクによる高意匠仕様を確立

6.事業内容

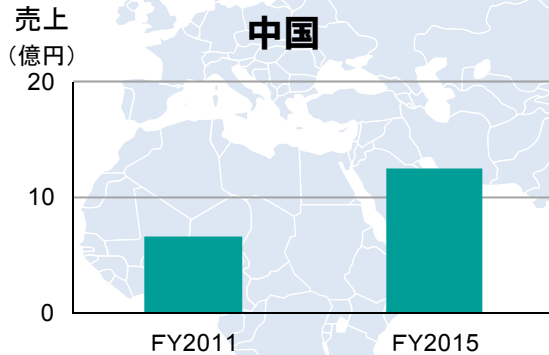
②海外塗料事業

- 2012年以降、海外での日系企業需要に対応し、海外事業拡大プロジェクトを展開
- 工業用塗料で土台を構築し、得意分野である重防食塗料の海外市場向け製品化を推進

中国 2002年設立

主要生産品 重防食用、工業用、自動車部品用、プラスチック用、建築用

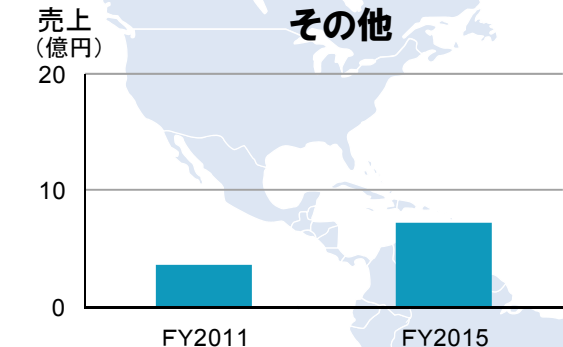
- 品種バランス充実、幅広い分野へ対応
- 自動車部品用塗料中心に工業用事業展開
- 重防食塗料は、日系プロジェクトを中心に展開



メキシコ 2003年設立

主要生産品 自動車部品用、プラスチック用

- 2013年関西ペイント(株)との合併販売会社を設立
- 日系自動車メーカーの進出に伴い、自動車部品・プラスチック用塗料を中心に事業拡大
- 今後、北米や南米への拡販も視野に営業活動を推進



タイ 1970年設立

主要生産品 自動車部品用、プラスチック用、工業用、重防食用、建築用

- 当社海外現法の最大拠点
- 自動車部品を中心に幅広い分野に事業展開
- 現状工業用中心も、今後、重防食塗料にも注力

シンガポール 1972年設立

主要販売品 建築用、重防食用、工業用

- 東南アジア・インド地域統括及び販売・マーケティング機能
- 地場発信型ビジネスモデル構築
- 地域内製品統合
- 未染手市場開拓
- 2014年販社へ特化、マレーシアジョホール州へ生産機能を集約

マレーシア 1983年設立

主要生産品 建築用、重防食用、工業用、プラスチック用

- 2014年ジョホール州に新工場設立し、旧シンガポール生産拠点を統合
- 建築用、工業用塗料の生産比率が高い
- 今後、マレーシア他、重防食塗料にも注力

インドネシア 2001年設立

主要生産品 自動車部品用、プラスチック用、工業用

- 2014年新工場設立、2工場体制
- インドネシアの日系自動車・部品メーカーの進出加速により、塗料需要が拡大
- 重防食分野を含め現地生産品目を拡大し、事業拡大

③照明機器事業(DNライティング(株)・ニッポ電気(株))



- 潜水艦内装用の夜光塗料技術から発展し、高い技術力と商品の完成度が評価され、業務用照明機器の分野で独自の強みを発揮
- 特注品対応、施工などの細やかな顧客対応により、デパート等の店舗照明や高級ブランド店の照明では高いシェアを獲得

建築化照明



- 天井、壁面、屋外など様々なシーンに合わせ、間接光、透過光、直接光などの光の演出により、建築物の特長を損なうことなく空間を演出

店舗照明



- 棚下照明、什器照明、冷蔵ケース照明などの用途ごとに、様々な色温度、配光、サイズ、形状の照明器具を求める設計者やデザイナーの要望に応え、商品をより美しく演出

6.事業内容

④ 蛍光色材事業(シンロイヒ株)

- 蛍光色材会社として、蛍光塗料・顔料における圧倒的な国内シェア
- 素材の製造・販売から、特殊な蛍光塗料を使って建物の内外装デザインまで手掛ける

防災サイン



- 災害時に非常口などの避難誘導ルートを明確に伝える蛍光塗料

ヘリポートサイン



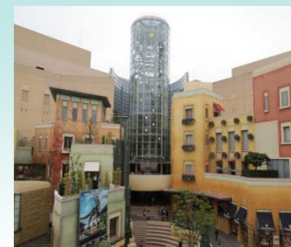
- 災害時に効果を発揮する対空表示(ヘリサイン)専用の蛍光塗料

捺染、インキ用水性蛍光顔料



- 新たな分野として用途開発を進めている蛍光顔料

テーマパークコーティング



- 耐候性、耐水性に強い水性アクリル樹脂を使用したデコラティブペイント

VフロンHBシリーズ/DNT水性重防食システム

- 超耐久性塗装システム「VフロンHBシリーズ」は、塗装系の高耐久化と塗装工程の短縮を実現
- オール水性化を国内で初めて実現した「DNT水性重防食システム」を提供。東京五輪に向けて普及を促進

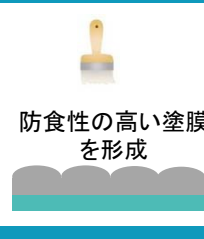
超耐久性塗装システム：VフロンHBシリーズ

東京スカイツリー®にも採用の重防食システム

塗装工程

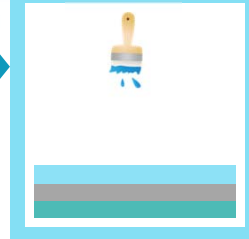
防食下地

有機ジंकリッチ
ペイントを採用
ゼッターED-2HB



下塗り

厚膜形エポキシ樹脂
下塗塗料：
エポニックス#30下塗HB



優れた耐候性

(中塗り)上塗り

厚膜形ふっ素
樹脂塗料：
VフロンHB



従来5工程の塗装仕様を3工程に

塗装工程の短縮

VOC排出量を約25%削減

環境負荷の低減

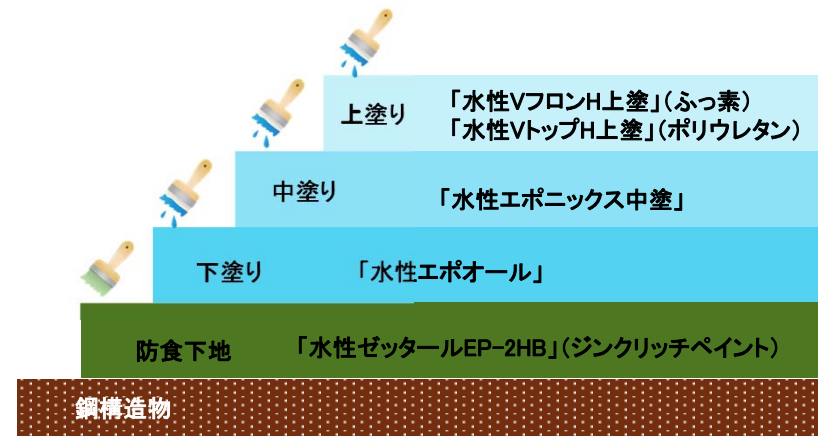
塗り替えサイクル10年→25年

塗り替え周期の延長

DNT水性重防食システム

環境配慮による溶剤系から水性化への流れ

- ジンクリッチペイントから下塗り、上塗りまでのオール水性化を国内で初めて実現
- 溶剤系と比べVOCを約90%削減



水性塗料普及への取組み

- 溶剤形重防食システムと同等の防食性、耐候性を有することをPR
- プラント、タンク、配管、橋梁、立体駐車場などに採用実績

DNT塗膜診断システム(塗膜診断・塗り替え仕様選定システム)

- 塗膜の劣化・寿命を正確に把握し、LCC(ライフサイクルコスト)低減を提示、補修・塗り替え需要を確保

システムの特長

- 塗膜下金属腐食診断装置は、ISO13129で認定されたカレントインタラプタ(CI)法を採用し、測定精度の信頼性が確認されている
- 塗膜劣化の範囲及び劣化度を高精度で診断できるため、塗り替え範囲と時期が判定できる
- 旧塗膜の種類や膜厚に応じた、適切で経済的な塗り替え仕様を選定できる

適用範囲

- 橋梁
- プラント設備
(電力、ガス、石油等)

1 塗膜調査メニュー

1. 外観調査

- ① 目視調査による評価
- ② 画像処理解析による劣化面積算出

2. 塗膜下金属腐食診断装置による調査



3. 塗膜の調査

- ① 膜厚測定
- ② 付着力測定
- ③ 化学分析

塗膜調査結果

2 コンピュータ解析による塗り替え仕様選定プロセス

- 期待耐用年数、工事予算、景観・色彩設定なども考慮した選定プロセス

診断レポート

3 LCCや環境に配慮した最適な塗装仕様を決定

2015年度(NETIS)“推奨技術”に選定 「サビシャット」



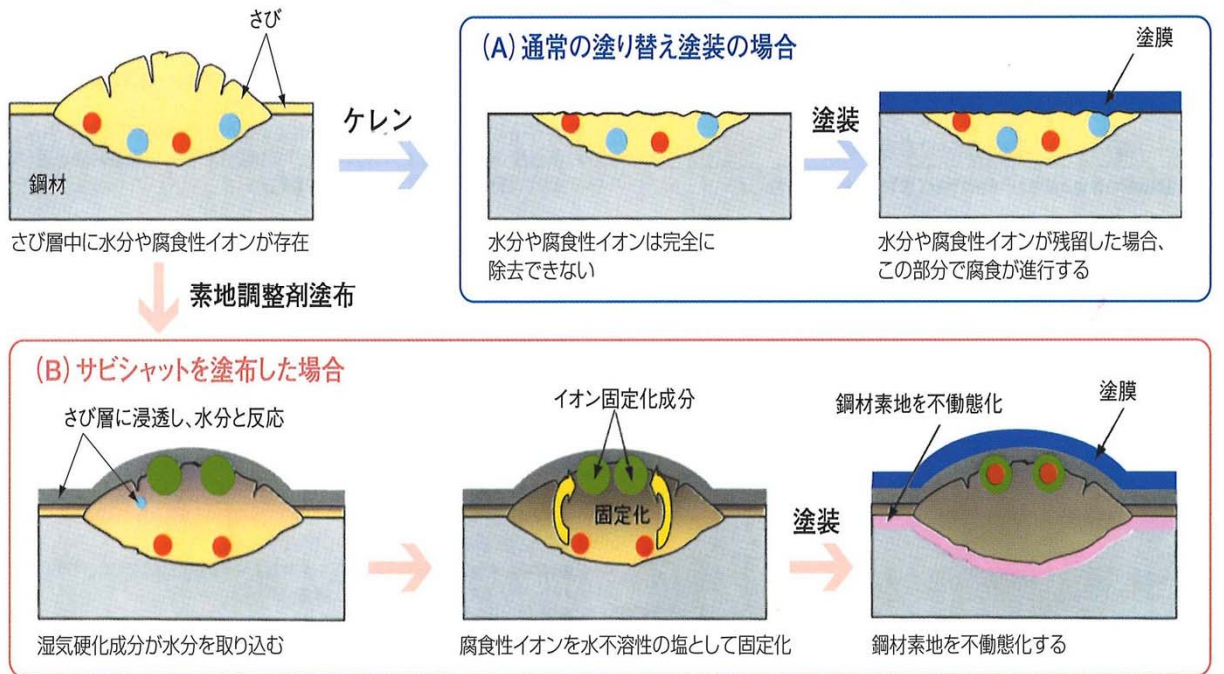
- 塗布形素地調整軽減剤「サビシャット」は、国土交通省のデータベース(NETIS)に登録されている申請情報(技術)のうち、画期的な新技術として2015年度の「推奨技術」に選定された

特長

- ① 粉塵や騒音の発生を低減
- ② 4種ケレン程度の素地調整で高レベルな下地づくりが可能
- ③ さび層に浸透し、脆弱層を強化
- ④ さび層中の水分を除去
- ⑤ さび層中の腐食性イオンを無害化

- 簡単な表面処理(さび等の除去)後の塗布のみでのさび止め効果の実現
- 従来の電動工具処理等がかかっていた時間・コストを削減できるうえ、処理で生じる粉塵や騒音を抑制、火花の発生を防止
- 化学プラントのタンク等において安全な塗装作業をサポートすることが可能

塗布形素地調整剤のメカニズム



本日はありがとうございました



彩り企業、DNT。

IRに関するお問い合わせ先

大日本塗料株式会社 管理本部 総務部

電話: 06-6466-6661
e-mail: dnt-sou@star.dnt.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。